

- た 梶川緑地
- ま 西のつつじが丘お休み処
- 二 堀之内沖ノ谷戸公園
- ユ 富士見台公園
- 一 長池公園
- 夕 南大沢中郷公園
- ウ 内裏谷戸公園
- ン 鎌水板木の杜緑地



閑静な住宅街のなかにある公園。テニスコートなども併設している。
 【アクセス】「だいら谷戸公園」バス停 下車すぐ



ウ

内裏谷戸公園



多摩丘陵の自然を活かした公園。シンボルは姿池に架かる長池見附橋。
 【アクセス】「見附橋」バス停 下車すぐ



一

長池公園



鎌水商人の1人、大塚五郎吉屋敷跡がある。小泉家屋敷が隣接している。
 【アクセス】「鎌水中央」バス停 下車、徒歩約5分



ン

鎌水板木の杜緑地



毎年春にフラワーフェスティバルの会場となる。図書館など公共施設が隣接。
 【アクセス】京王相模原線「南大沢駅」下車すぐ



夕

南大沢中郷公園





の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

◆例会：毎月第2月曜15:30～17:00
◆お問い合わせ先：(678) 1880

(高齢者あんしん相談
センター南大沢・青山)

歴史を記録する由木ぶら散歩の会

ぶらぶら歩いて、つながって

ある晴れた日、大田川の源流を探るために小山内裏公園に集まったのは、「歴史を記録する由木ぶら散歩の会」のメンバーたち。「園内には昔、田んぼがあったんです」「これ、山椒の実ですね」「ここから良い写真が撮れますよ」……と、思い思いに語りながら、気ままに散歩しています。

由木ぶら散歩の会は2024年、広く地域に開かれた交流の場を提供したいという南大沢の「認定こども園せいび」と、高齢者の社会参加を推進していきたいという「高齢者あんしん相談センター南大沢」の共催でスタートしました。

企画を立案したのは、高齢者あんしん相談センター南大沢の青山百合香さん。これまでもマルシェや編物サークルなどに取り組んできましたが、次の取り組みとして検討したが、まったくの門外漢だったという「歴史」でした。いろいろな方に相談しながら多くの人が参加できるように会の構想を練る中で、ぶらぶら散



▲小山内裏公園の大田切池を見学するみなさん

歩しながら地域の歴史を学ぶスタイルが定まっていきました。青山さんは「仲間同士で集まって何かをすることで、世界が広がってくれば良いですね」と語ります。毎月1回開かれる座談会のような例会では、次はどこに行こうかといった、ざつくばらんな語りながなされ、そこで決まった場所へのフィールドワークを不定期に開催しています。「活動の成果をいずれぶら散歩MAP」としてまとめて、地域のみなさんにも共有(シェア)していきたい」と青山さん。気負わない自然な姿の人と人のつながりが由木地域から生み出されています。

はちとびサポーターの会 会計報告

77,040円 (2023年12月11日
～2024年12月10日)

心よりお礼申し上げます。
引き続きよろしく申し上げます。



はちとび32号にて「はちとびサポーターの会」を立ち上げ、読者の皆さまに広くご寄付をお願いしました。その結果、非常に多くの方々より温かいご支援を賜りました。厚く御礼申し上げますとともに、上記の通り会計報告いたします。賜りました浄財をもとに今後とも魅力的な誌面づくりに努めます。

振込先 【はちとびサポーターの会】

ゆうちょ銀行 口座番号 00110-4-0514170

※お問い合わせは【揺籃社→☎042-620-2615】

一口1,000円
随時受付

※年1回、誌上にて会計報告します
※収集した個人情報は無断使用いたしません

はちとびサポーター特典！ ご寄付いただいた方には本誌を自宅まで郵送します

由木地区の江戸時代の氏神・鎮守について

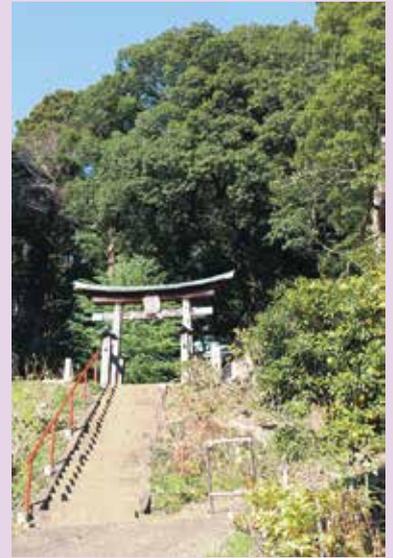
『広辞苑』をみると、氏神とは「氏の祖先の霊を神として祀ったもの。氏族神」、鎮守は「その地を鎮め守る神。また、その社」、産土神は「生まれた土地の守り神、近世以後、氏神・鎮守の神と同義に作る」とある。

つまり、氏神は氏族の神（氏の系譜＝時間的）、鎮守は一定の土地を守る神（地域＝空間的）、産土神は生まれた土地の神である。

氏とは、血縁関係のある家族群（本分家）で構成された集団で、後世には必ずしも血縁関係がなくても、姓を同一にする集団で氏と考える場合もある。鎌水の小泉姓は、小泉本家の稲荷を初午に祀る。南大沢の日枝神社は田中姓で祀っていた。

鎮守は寺院にもある。以下、文政5年（1822）の『新編武蔵風土記稿』をみてみよう。下柚木の永林寺では、白山社・三社合祀社・三峰社・妙見社・弁天社の五社はみな境内の鎮守、堀之内の保井寺は白山神社が境内の鎮守とされている。

別所の山王社（日枝神社）は蓮生寺の持ちで、村の鎮守である。松木は村の鎮守はなく、浅間社・稻荷社・聖天社・神明社など、土豪的な者に属した神社や集落の鎮守の七社が併記されている。南大沢の八幡社は村の鎮守で村民の持ち。上柚木は愛宕社・神明社な



▲上柚木の神明神社（社殿は山の頂にある）

ど七社が村の持ち。下柚木の御嶽社は上・下柚木村の鎮守で光明院（廃寺）の持ち。鎌水の弁天社は村の鎮守で村の持ち、八幡社は小山村本覚院（修験）の持ち、諏訪社は村の鎮守で村持ち、子神社は永泉寺持ち。中山の白山社は村の鎮守で別当（神社に付属する寺院）が常宝院（修験・廃寺）となっている。

堀之内にある北八幡社は堀之内・越野・松木三村の鎮守で、別当が普願寺（廃寺）。南八幡社は小田源太左衛門の勧請で松木村教福寺（廃寺）の持ち。越野の山王社は村の鎮守で、別当は玉泉寺。東中野の熊野社は村の鎮守で、別当が金住院（廃寺）。大きな塚の上にある大塚の八幡社は別当が最照寺。

一つの村に一つの鎮守社ではなく、その管理は村や村内外の寺や修験であり、多様だった。神社を寺や修験が管理し、神社では本地仏を祀るなど、神仏習合が平安時代以来の伝統的な民俗信仰であった。今の私たちの神仏に対する考え方の多くは、明治になってから新たにつくられたものである。

八王子自然探訪 ①

八王子・日野カワセミ会 会長 粕谷 和夫

多摩ニュータウンを歩く

1970年代から入居が始まった多摩ニュータウンのうち、八王子市域の中心は南大沢駅や京王堀之内駅である。駅周辺には八王子市の行政施設や大学、アウトレットモール、商業施設などが立地しているが、ここは自然探訪の地としても極めて恵まれている。最大の理由は、この地域が多摩丘陵で、かつ縄文時代から続いた里山的な人の営みが開発前まで維持されてきたからだ。その基盤の上に形成されたニュータウンが自然探訪の地としても優れている具体的な理由を以下に列記してみる。

- ①多摩丘陵の自然と地形を生かしながら、自動車道と立体分離された歩行者専用道路のネットワークが整備されている。
- ②歩行者専用道路には急坂がなく、歩いていて息切れをすするような所がない。
- ③公園、緑地、緑道が多く、それぞれが歩道で結びつけられている。
- ④歩道の幅が広く、かつ街路樹があつて、適切に管理されている。
- ⑤緑が破壊されたニュータウンであったが、建設から50年が経過して町の中に緑が復活してきている。
- ⑥ニュータウンの中心に大栗川が流れていて、カモ類、サギ類、セキレイ類、カワセミなどの水鳥に身近に出合える。
- ⑦堀之内地区にあつた「多摩ニュータウン19住区」が地元の酪農家の強い反対で開発計画から除外され、今ではアグリ・ニュータウン、「農のある景観」としてニュータウンの接続地にある。



▲せせらぎ緑道

ても自然探訪地となるが、今回は私特に好きなルートを2コース紹介する。いずれも距離が長いので、数回に分けて歩くと良いだろう。この他にも素晴らしいコースが数多くあるが、スペースの関係で割愛する。

1. 南大沢駅から都道503号（相模原立川線）を通過して、「南大沢」交差点に出る。そこから「清水入緑地」内に入り、「南大沢南」交差点から長池公園内を巡り、「長池公園見附橋」の下から「せせらぎ緑道」を通り、京王堀之内駅に出る。
2. 多摩モノレール松が谷駅から「松が谷遊歩道さんぽみち」を通り、隣接する3公園（大塚西公園、東中野公園、大塚公園）を巡り、大塚公園の「運動広場」から大栗川に下りる。堤防を上流に向かい、「乞田川」合流地を過ぎ、「さんもり橋」から「富士見台公園」「松木日向緑地」を通り、南大沢駅に出る。

私の本はこうして生まれた

其の五十九

『忍者ってなんだ!』 池田 裕、遠藤 進 共著

忍者ブームが止まりません。忍者に関する商品が次々と製品化されたり、海外からの観光客が忍者

体験に列をなしたり。そんな忍者の聖地と言えば三重県の伊賀ですね。本書の著者・池田裕さんは

伊賀忍者研究会代表。これまでに蓄積した数多の忍者情報を選びすぎり、初心者向けにまとめました。「手裏剣を使っていなかった」「猫の目は時計代わりだった」など、驚くべき事実が満載。共著

の遠藤進さんにより、八王子での忍者の活躍も披露されています。忍者を知るならこの1冊!

私は伊賀在住で現代忍者を

実践している。忍者は忍術を

駆使して生き残ってきた。忍

術を現代に応用した生存術を

普及させ、それをNinjablog

(忍者学)という言葉で表し

ている。忍者の仕事は情報取

集、情報発信だ。ところが昨

今、飛んだり、跳ねたり、バ

ク転したりする映画や漫画の

アクロバット

忍者がまか

り通っている。これはい

けないと思っ

た。真の忍者

を伝える必要

を感じてい

た。その手段

が狼煙^{のうし}。忍者は狼煙を得意と

した。狼煙の歴史は古く、中

国で始皇帝が万里の長城に狼

煙台を設置し、日本も大和朝

廷が太宰府から危機管理とし

て奈良まで狼煙伝令システム

を構築していた。支配者のみ

が知る通信手段を忍者は個人

で使った。現代の狼煙がSNS

Sだろう。私もさまざまなS

NSを活用して情報を得てい

る。

昨年12月にSNSの「X」

で八王子市在住の遠藤進さん

と知り合う。遠藤さんは植物

写真を毎日アップしていた。

植物通と思い、メッセージを

送った。忍者は植物を有効利

用してきたからだ。遠藤さん

に実は私は忍者研究者と告げ

ると、八王子も忍者と関わり

があったとの情報をもらおう。

そこで私は八王子に行つて高

尾山を案内していただき、と

んとん拍子に話が進んで揺籃

社で忍者の本を出版しようとい

うことになった。

半年間、ほぼ毎日メールや

電話をし、本完成まで八王子

に4回も通った。おかげで八

王子の地理に詳しくなった。

遠藤さんは私にイラストレー

ターというソフトを使って作

成して欲しいと言う。遠藤さ

んは何度も揺籃社から本を出

しているベテランで従わざる

をえない。初めてのソフトで

の作成は本当に悪戦苦闘だっ

た。ケンカもしたが、このソ

フトを使う意味が終盤になっ

てようやく分かった。私は文

章で遠藤さんはイラストの担

当だったが、八王子の忍者も

捨てがたいので遠藤さんにゼ

ひ八王子編の文章を書いて欲

しいと頼んだ。いろいろあつ

たが、良い本が出来たと自負

している。行動をすれば何か

が起こる。行動力がある現代

忍者と強かな八王子忍者が

創った本書^{したた}。ぜひ忍者の神髄

を学んで欲しい。(著者記)

『忍者ってなんだ!』

定価1000円+税 揺籃社刊

新書判、80ページ

※本書をお求めの際は、お近くの書店か当該編集部までどうぞ。

